

# 年頭所感 2024



令和六年一月一日  
公益社団法人 北海道臨床工学会  
会長 大宮 裕樹

令和六年の年頭にあたりご挨拶を申し上げます。

令和六年一月一日より石川県能登地方で発生した地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

日本各地で発生します災害に対し危機意識を高く持ち災害対策に取り組んでおりますが、突然訪れる災害に対し情報整理、被災に対する支援等々多くの対応に迫られる事となります。この度は時期的に寒期でありさらに迅速な対応が必要と思われ、我々医療に関わる職として患者さんを守るため関連各所と連携し対応を要することとなります。更なる被害が出ないことを願い、一刻も早い復旧と復興を祈念いたします。

北海道臨床工学技士会としてコロナ禍の中様々な活動に取り組んできました。大きな変革として Web 事業の構築となります。令和二年度より支部制が導入され 9 支部による事業展開により職能団体としての土台を築き多くの Web 事業が展開されてきました。昨年より COVID19 は 5 類となり感染対策も緩和され対面事業の開催も徐々に行われてきましたが、今後につきましても両者のメリットを活かし効率的かつ有益な事業となるよう検討し開催いたしたいと思っております。

昨年は第 9 回北海道・東北臨床工学会（第 34 回北海道臨床工学会）を函館で開催し、支部執行役員や各委員会委員総動員にて対応され参加者 454 名と盛会に終えることができました。学会開催につきまして企画から運営を牽引しました雲母公貴大会長に心よりお礼申し上げます。この度の支部主導の学術大会開催を経験し今後の北海道臨床工学会につきましても北海道内の臨床工学技士発展ため必要な取り組みと感じております。

委員会事業においては、ニーズに合わせた取り組みを検討し今まで以上の実績を提供していただいております。

継続事業とせず先を見通し変化することは必要ですが、大きな労力が必要となります。そのために今後とも委員が助け合い、時には技士会業務から離れて環境を整理することも必要となります。本業ありき家族ありきの技士会業務なので皆でサポートしながら会務を進めていただければと日々思っております。

今年には役員改定の年となります。新たな風を入れながら臨床工学技士という職業が魅力あり将来も発展できるような取り組み、各施設では臨床・経営に寄与し臨床工学部門を発展していただけるように目指していただきたく思います。働き方改革におけるタスクシフト/シェアに対し医師だけではなく多職種へ貢献していただくことにより、自施設だけではなく近隣施設、関連施設への波及も発生してきます。北海道臨床工学技士会としても皆様の取り組みをサポートできるよう全力で応援いたします。

本年が、皆様にとって豊かな一年となりますことを祈念して、年頭のご挨拶といたします。